国立大学法人島根大学経営協議会（第５２回）＜議事要録＞

日　時　　平成２４年１０月１日（月）１４：００～１６：１５
場　所　　本部５階大会議室
出席者　　小林学長，塩飽理事，肥後理事，竹内理事，井川理事，両角理事，江口理事
有澤委員，大谷委員，梶田委員，中村委員，福島委員，松浦委員，間宮委員
〔陪席：山崎監事〕

報告事項１．平成２５年度概算要求の概要について

○　両角理事及び財務部長から資料により，平成２５年度概算要求の文部科学省原案について，本学に係る要求内容及び国立大学法人運営費交付金全体の概要を中心に説明があった。

報告事項その他．平成２３事業年度財務諸表の承認について

○　両角理事から，本会議で承認の上文部科学省へ提出していた平成２３事業年度財務諸表について，平成２４年９月２６日付けで文部科学大臣の承認を受けた旨報告があった。

協議事項１．教育改革について

○　肥後理事から資料により，本学が進める教育改革について，改革の柱となる「グローバルな感性」，「社会力（人間力）」及び「自ら学ぶ（応用力のある）人材」を育成するための「セルフ・プロデュース」型のプログラム導入や副専攻プログラム及び体験型特別プログラムからなる新たな選択型プログラムの提供，平成２４年８月２８日に示された中教審答申で求められている学士課程教育の質的転換のための改革マネジメントの一つとして立ち上げる「島根大学教育ルネサンスプロジェクト会議」等について説明があった後，意見交換が行われた。

○　委員から次のとおり意見があった。

・学生時代に社会での経験が多い学生ほど会社の中での自分の位置を理解し，目標をしっかり持っている。就職のためだけでなく，様々な形で社会との関わりを持つことが大切であり，できるだけ多く社会との窓口を持つ方向で改革を進めて欲しい。
・企業では自ら課題を見つけ解決に向け取り組める人材を求めており，「セルフ・プロデュース」型の導入に大いに期待している。また，自ら課題を見つけ解決に取り組むという意味では，卒業研究が最もこれに近いので，各学年で卒業研究に近い内容のものをやることでそのような人材が育つのではないか。
・改革の成果は学生がどれだけ学修するかにかかっており，そのためには学生への学ぶことの意味付けが必要である。これに合わせて様々な形で社会との接点を持つことで自分の将来に対するイメージを持つことができ，学修への意欲も高まるのではないか。
・中教審が求める学士課程教育の質的転換のためには，教員の意識改革も必要であり，教員のプレゼンテーション能力の向上も含め工夫をお願いしたい。
・最近は歴史的背景を含めた考え方ができなくなってきている。郷土の歴史を知ることも重要であり，体験型特別プログラムの中でそれができるよう，我々も積極的に参画したい。また，松江歴史館もぜひ活用して欲しい。
・大手企業や中小企業が行う研究開発や新製品開発にもっと学生を巻き込んではどうか。例えば，学生の卒業研究として新製品の開発に取り組ませる等すれば生きた教育に繋がり，企業，学生双方にとってプラスになるのではないか。
・学生に決断する経験を積ませることが必要である。疑似体験でも良いので，企業等とチームを組んで一緒に課題を解決する過程で「決める」経験を積む仕組みや社会・企業から課題を見つけるような取組みを行って欲しい。

・学際的な取組みで幅広く知識を付けることも大切だが，その学部・学科・研究室でしか身に付かない特定分野に関する深い知識や専門的な技術を身につけることも必要であり，今までの大学教育を否定する方向へ向かってはいけない。

協議事項２．グローバル人材育成について

○　竹内理事から資料により，本学が進めるグローバル人材育成について，これまでの本学の取組状況，具体的な英語コミュニケーション能力の強化策及びその実施体制，達成目標等について説明があった後，意見交換が行われた。

○　委員から次のとおり意見があった。

・学生だけでなく，若手教員にも海外での経験を積ませて欲しい。帰国後，学生に対し刺激を与えることになる。

・英語コミュニケーション能力の強化策は，一部の学生を対象としたエリート教育のように見えるため，この他に全体を底上げする工夫が必要ではないか。最終的な目標は実践の場で使える語学力を身に付けることであり，例えば松江市に来る外国人の案内をさせるなど実践的な能力をどう付けさせるかを考えて欲しい。

○　学外委員からの意見を受け，学長から，学生寮を全て留学生との混住とするなど留学生との交流の機会を増やすこと，留学前にはSkypeで事前交流を行うこと，TOEICの成績優秀者にはインセンティブを付けることについて説明があった。

○　本件に関連して，委員から秋入学に対する本学の方針について質問があり，学長から，社会全体が秋入学に向けて移行すれば本学でも導入を検討するが，現時点ではその考えはない旨説明があった。

協議事項３．古代出雲文化フォーラムについて

○　学長から資料により，平成２５年３月３日に開催する「古代出雲文化フォーラム」の実施計画概要及び現在の申込状況，並びに学部の壁を超えたバーチャルな研究推進組織「出雲文化学際研究ネットワーク（仮称)」の計画概要について説明があり，併せて「古代出雲文化フォーラム」実施に向けての学外委員の協力に対しお礼が述べられた。

○　委員から次のとおり意見があった。

・「出雲」を浮かび上がらせるためには，国際的な視点を持って行うことが必要である。

・学外でのフォーラムは今後も継続的に開催し，島根大学がコアとなって全国を動かして欲しい。

・「出雲文化学際研究ネットワーク（仮称）」について，バーチャルな組織としてスタートすることで良いが，将来的には実体を伴う組織として欲しい。